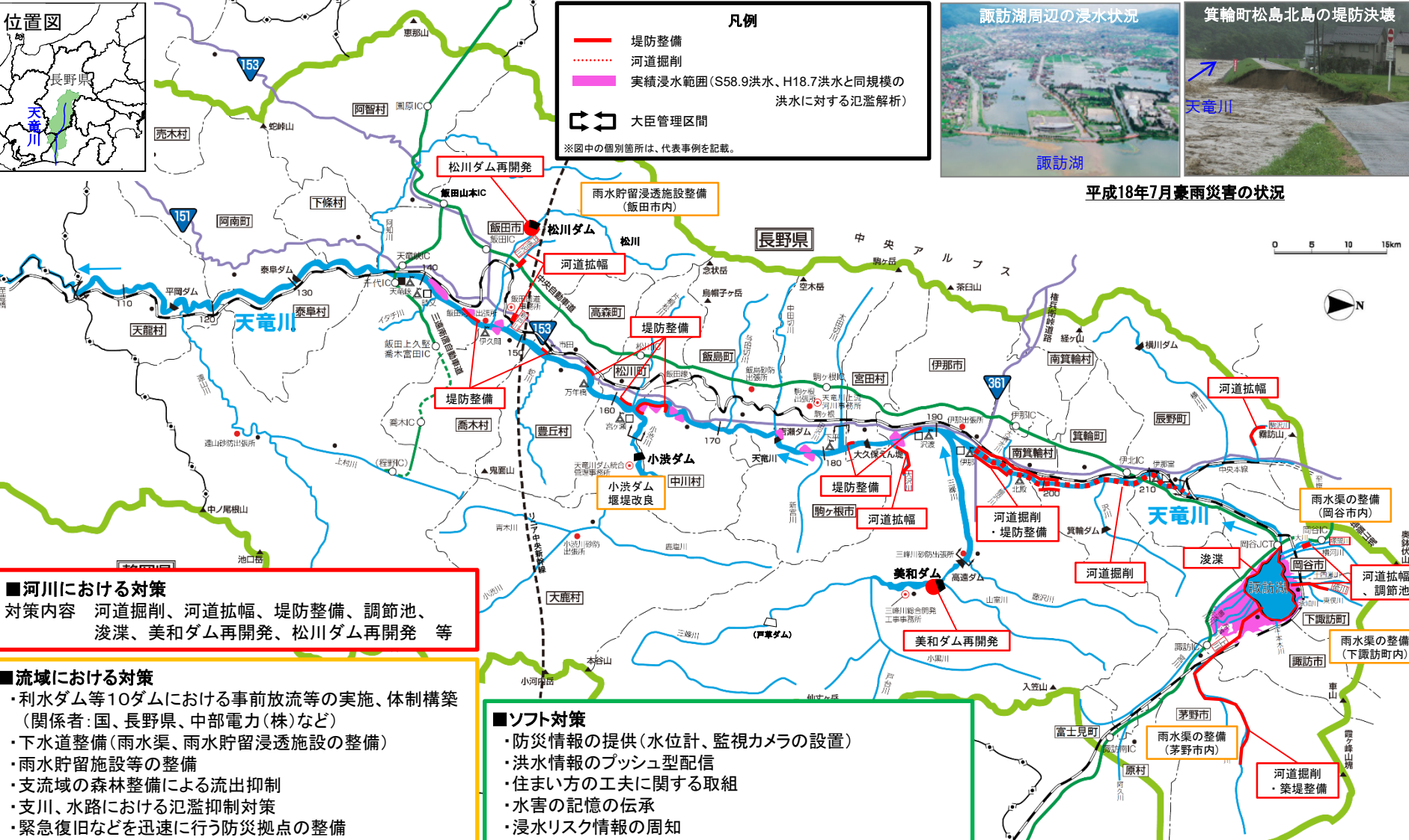


流域治水プロジェクトの中間取りまとめ (案)

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、天竜川（上流）水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理河川においては、戦後最大の昭和58年9月洪水及び平成18年7月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



凡例

- 堤防整備
- ⋯ 河道掘削
- 実績浸水範囲 (S58.9洪水、H18.7洪水と同規模の洪水に対する氾濫解析)
- ⇄ 大臣管理区間

※図中の個別箇所は、代表事例を記載。



平成18年7月豪雨災害の状況

0 5 10 15km



■ 河川における対策
 対策内容 河道掘削、河道拡幅、堤防整備、調節池、浚渫、美和ダム再開発、松川ダム再開発 等

■ 流域における対策

- ・ 利水ダム等10ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、長野県、中部電力（株）など）
- ・ 下水道整備（雨水渠、雨水貯留浸透施設の整備）
- ・ 雨水貯留施設等の整備
- ・ 支流の森林整備による流出抑制
- ・ 支川、水路における氾濫抑制対策
- ・ 緊急復旧などを迅速に行う防災拠点の整備
- ・ 気候変動に向けた検討 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ ソフト対策

- ・ 防災情報の提供（水位計、監視カメラの設置）
- ・ 洪水情報のプッシュ型配信
- ・ 住まい方の工夫に関する取組
- ・ 水害の記憶の伝承
- ・ 浸水リスク情報の周知
- ・ 水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。